

ナタネミズツボ

Fukuia minima (Bartsch)

ニナ目イツマデガイ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本固有種であり、既知の生息地が佐渡島と能登半島に限られるが、能登における生息環境が悪化しているため。

形態

殻高3mm程度の塔形の巻貝で、緑黄褐色を呈した半透明の殻を持つ。二次的な付着物により、殻の外観はほとんど黒褐色のこともある。軟体はほぼ黒色で、口器は幅広い。水中にいる生体を観察すると触角の基部に眼点が見える。

国内分布

佐渡島と能登半島北部。

県内分布

志賀町（富来地区）、輪島市（輪島地区、門前地区）、能登町（柳田地区）。

生態

湧水が滴る湿岩帯や溪流の岩肌、石上に生息。

生息地の条件

まとまった広さをもつ湿岩帯の存在。

生存の危機

道路工事に伴う湿岩帯の消失。水脈の消失。（A、D）

特記事項

これまで海岸近くに生息地が多いとされてきたが、能登地方では山間部にも生息地があることが判明した。水中で生体を観察すると「触角の基部に眼点がある」ことがわかり、従来の文献記録とは異なる特徴が見られる。

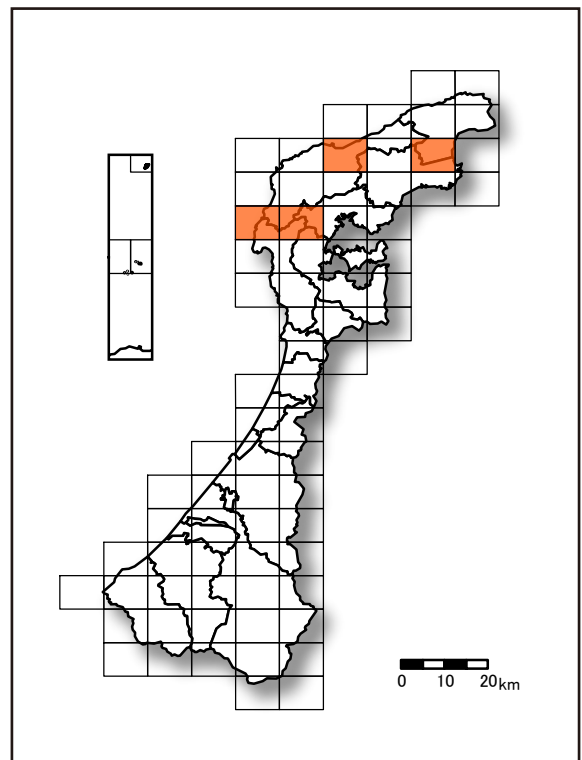
参考文献

増田修 2005. ナタネミズツボ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類：175.

増田修・内山りゅう 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. 240pp. ピーシーズ. 東京.



写真提供者：石原一彦



県内の分布